

第4章 施設計画に向けた基本的な考え方

第4章 施設計画に向けた基本的な考え方

文化芸術の拠点にふさわしい施設機能を整備します。

文化庁による文化財公開施設の基準を満たす機能を整備することで、作品の保管・展示における施設の安全に対する信頼性を確保し、ガラスと陶磁器を中心にした国際工芸美術館の活動を充実、発展させます。また教育普及事業をはじめ、将来的に活動が広がる場合を考慮した施設配置や諸室計画を行い、国際版画美術館、芹ヶ谷公園と相乗する効果がさらに発揮できる施設計画を実施して町田市における美術ゾーンの形成を図ります。

■文化財公開施設の基本的な考え方

1. 建築予定地の環境、建物の配置が文化財の保存・公開にふさわしいものであること。
2. 建物は、耐火・耐震性能に配慮し、安全性を確保していること。
3. 建物内の展示室、収蔵庫等の配置が展示、収蔵、管理等の面から機能的であり、かつ、十分な広さを確保していること。
4. 展示室、収蔵庫等の設備が、適切な展示および保存環境を確保していること。
5. 防火・防犯等の各設備が適切に配置されていること。

「文化財公開施設の計画に関する指針/平成7年8月/文化庁文化財保護部」より引用

1 施設計画の考え方

(1) 周辺施設と連携した地域回遊動線の計画

町田駅-中心市街地-芹ヶ谷公園および公園内における回遊性の向上に配慮して施設を計画します。中心市街地と芹ヶ谷公園をつなぐ結節点として、中心市街地からのアプローチの工夫、周辺地域を含むサイン計画を行い、施設の場所が分かりやすく、来館者が訪れやすい施設を目指します。

また、車やバスでの来館の利便性にも配慮するとともに、中心市街地からの徒歩来館の利便性について最大限考慮します。

(2) 誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設づくり

公開エリアと収蔵・研究エリアを明確に分けたゾーニングとします。公開エリアは、市民が気軽に利用できる開かれた施設とするため積極的な活用を検討していくとともに、くつろぎのスペースの確保やユニバーサルデザインの採用等により、誰もが利用しやすい快適な施設とします。多言語対応や、点字、音声案内等にも配慮します。また、小中学校等の団体利用に必要な充分なスペースの確保にも留意します。

(3) 環境や景観に配慮した施設づくり

町田市公共事業景観形成指針に基づいた計画により、周辺景観との調和を図ります。また、省エネルギー性能の高い施設づくり、環境への影響が少ない工法や建設機械の採用等、環境負荷低減化に努めます。

(4)施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減化

計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化を図るとともに、修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。また、素材や施設配置の工夫により、メンテナンスのしやすい施設を目指します。

(5)健康で安全な環境の保全対策

施設および体験工房等からの排水、廃棄物等については、東京都および町田市の定める規定に従って適切に処理し、健康で安全な環境の保全に努めます。

(6)災害対策

集中豪雨時の浸水対策や地震対策など様々な災害を想定し、対策を検討します。特に、貴重な美術品を取り扱うという特質上、地震への対策は重要視します。

芹ヶ谷公園地域はかつて浸水したことがあるため、所蔵作品等に被害が及ばない施設計画を行います。また、国際工芸美術館の建物は、耐震・制震・免震等の工法を十分に考慮したうえで、地震対策を施した施設とし、震災時の人的被害はもちろん、貴重な所蔵作品の保護を図ります。

2 エリア構成と動線計画

(1)エリア構成

美術館におけるエリアは、来館者が入ることのできる「公開エリア」、美術館スタッフや業務目的の来訪者のみが利用する「非公開エリア」に分けられます。

公開エリアは主として、展示エリアと交流エリアから構成されます。また、非公開エリアは調査・研究・運営エリアおよび収集・保存エリアから構成されます。

(2)各エリアの概要

(ア)展示エリア(公開)

工芸美術は生活で使われるものや小さな作品が多いため、作品に近づいて鑑賞でき、身近に感じられる演出を行います。そのため、展示エリアは広すぎず、コンパクトで親しみやすい空間ボリュームとします。

展示エリアはコレクションギャラリー、特別展示室、フレキシブルスペースに3分類し、可変性が高く柔軟に運用できる空間とします。

(イ)交流エリア(公開)

市民が気軽に集うことのできるオープンな空間を中心に、体験工房やアートライブラリー等を配置した教育普及と交流の場とします。だれでも快適に利用できるようバリアフリーに配慮するとともに、余裕のある空間構成とします。

エントランスホールは、大型展示物の展示やイベント、ミニコンサート等にも対応可能なエリアとし、開放的で明るい空間とし、外気の流入や音の反響にも配慮した空間とします。

(ウ)調査・研究・運営エリア(非公開)

学芸員の調査研究・展示・教育普及活動の執務、事務職員の執務エリアとします。バックヤード動線に配慮し、他エリアとの効率的な動線計画を行います。

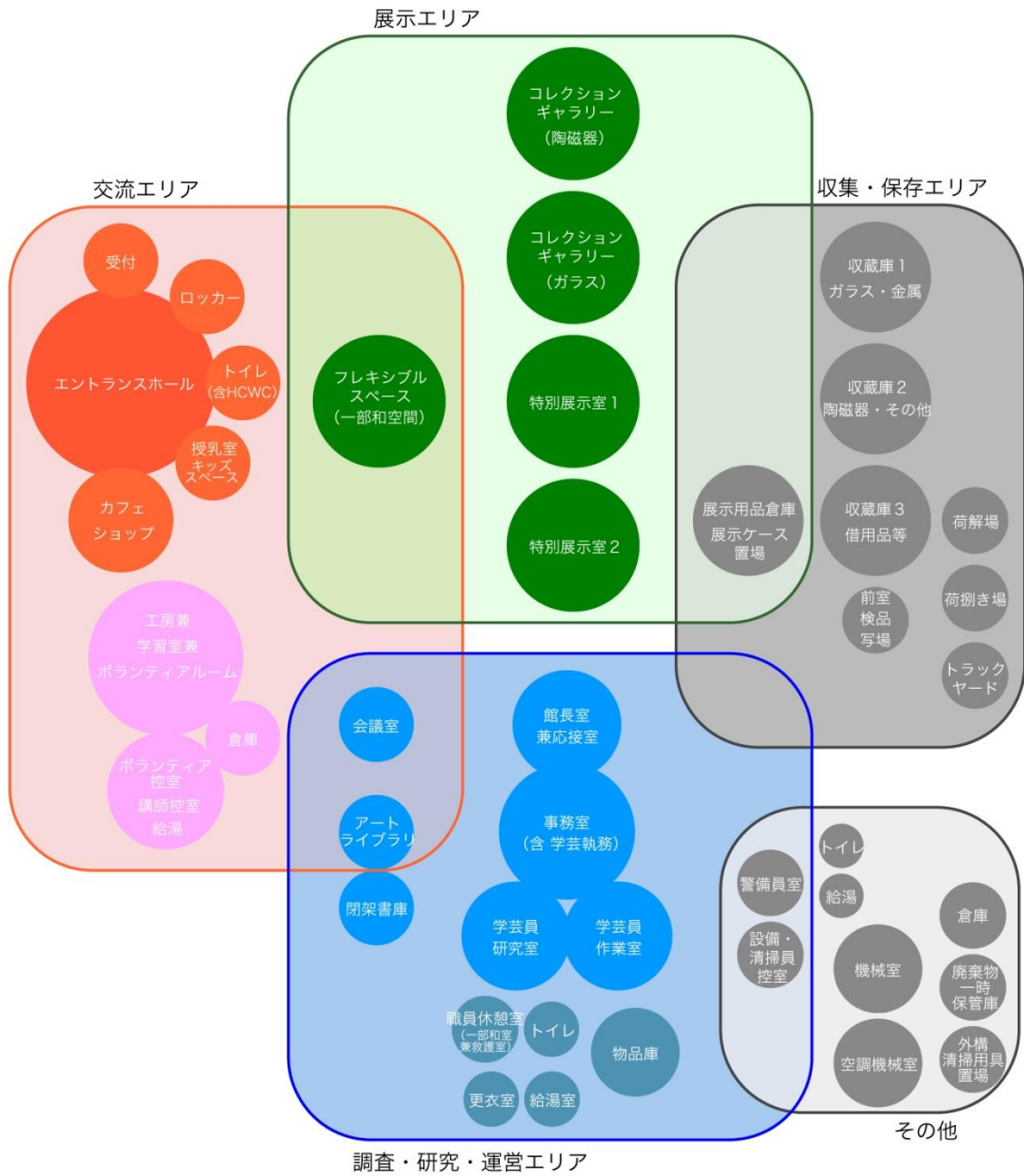
(エ)収集・保存エリア(非公開)

所蔵作品の特性に合わせ、ガラス、陶磁器、借用資料収蔵庫を計画します。

(オ)その他(非公開)

倉庫や機械室、廃棄物一時保管庫等を計画します。

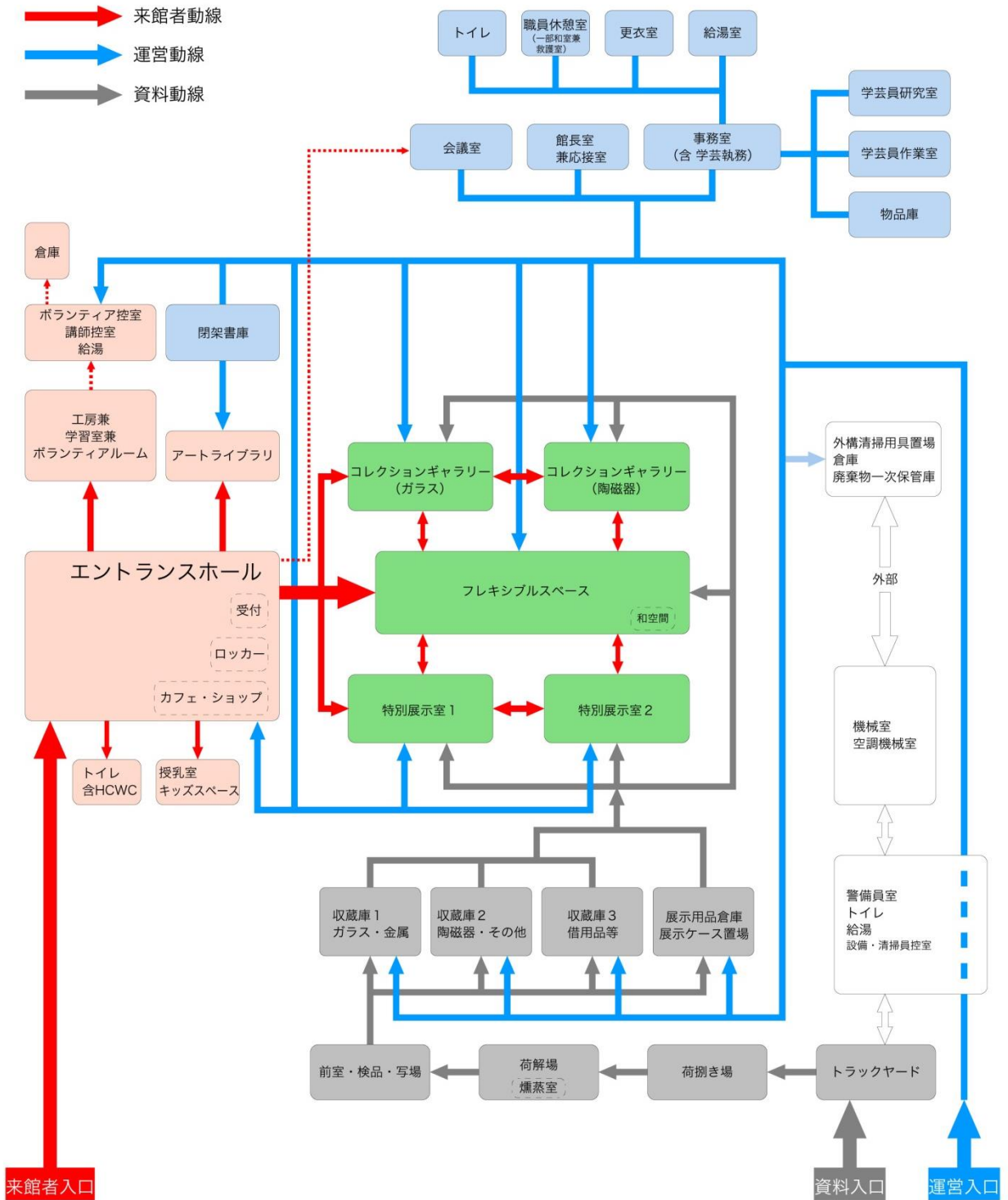
■エリア構成概念図



(3) 動線計画

美術館の動線には、来館者動線、運営動線(スタッフが移動するための動線)および資料動線(作品の搬出入等の動線)があります。動線計画にあたっては、これら3つの動線がなるべく交差しないよう計画します。

■ 動線図



3 主な活動諸室の概要

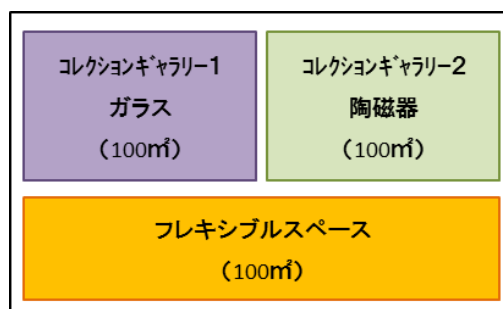
(1) 展示室

ガラスと陶磁器の展示に適した広さとして、1 部屋 100 m²を目安とします。それを 5 部屋計画することで、展示室合計 500 m²とします。

(ア) コレクションギャラリー

展示室はガラス(100 m²)・陶磁器(100 m²)・フレキシブルスペース(100 m²)を目安とします(*注 1)。

最大 300 m²をコレクションギャラリーに使用することができます。



(*注1) フレキシブルスペース(100m²)の考え方

展示室としての固定的なつくりにはせず、多用途に使用することを想定します。可動式展示ケースを活用し、ガラス・陶磁器のコレクションギャラリーの拡大、その他工芸展示、大型企画展示等に使用します。ケースを撤去してホール等として使用することも可能。

(イ) 特別展示室

ガラス・陶磁器を柱とした工芸分野の借用作品および所蔵作品を展示するものとし、100 m²×2 部屋を目安とします(*注 2)。1 回の展示作品数は 2 部屋で 60~80 点程度とします。

大規模巡回展には、フレキシブルスペースや陶磁器コレクションギャラリーを使用して対応します。また、大きなサイズの作品については、フレキシブルスペースやエントランスホールを使用して対応します。

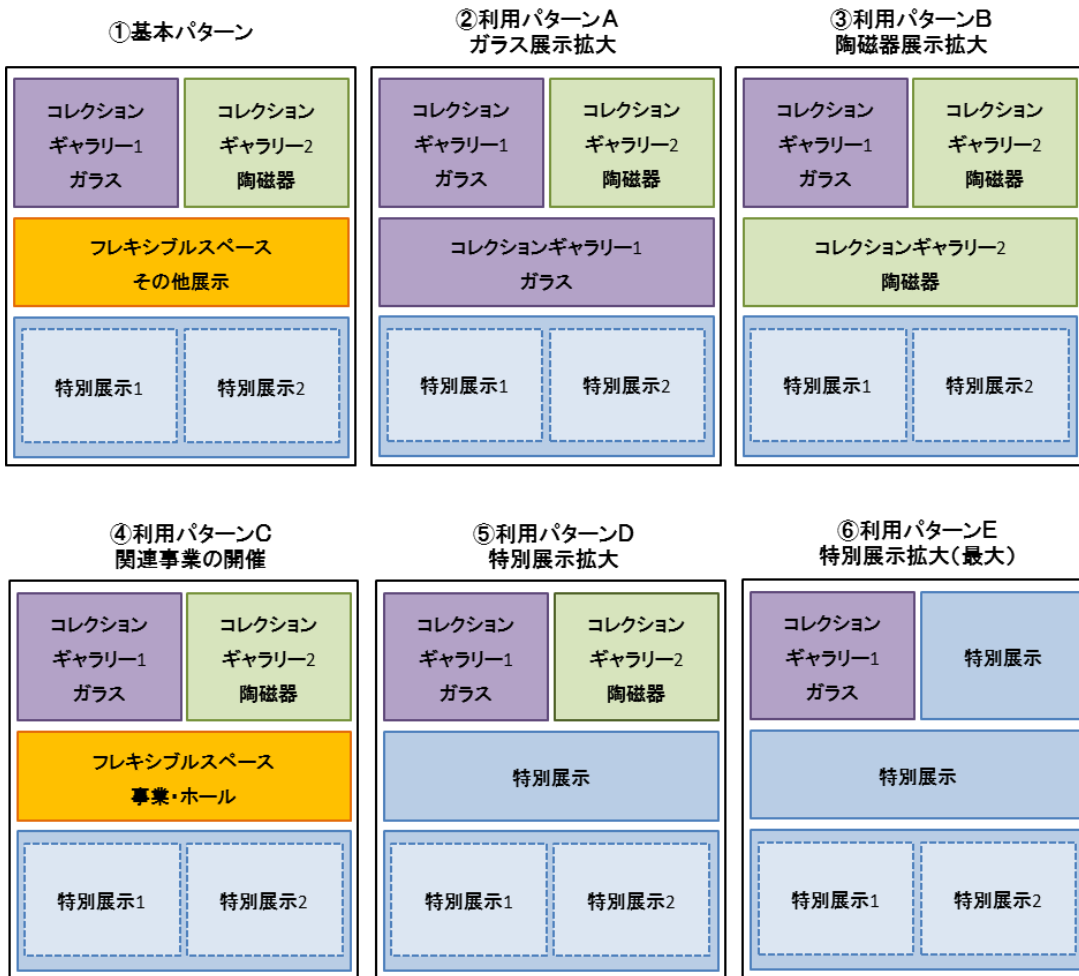
(*注2) 特別展示室活用の考え方

最大 400 m²の特別展開催が可能。

(ウ) 展示室活用計画について

3つの展示室を組み合わせることで活用することにより、展示のテーマや規模にあわせた柔軟で効率的な展示室利用を可能にします。

■活用例



(2)収蔵庫とバックヤード

以下の内容をふまえ、所蔵作品の特性に合わせた収蔵環境を整備します。なお、設計時に文化庁の指導を受けることとします。

(ア)防災環境

火災や地震等に配慮し、安全性を確保します。

(イ)セキュリティ環境

入退場管理システムおよび監視カメラ、モニタリング設備を設置します。夜間は有人警備とします。

(ウ)安全な資料の取り扱いの確保

地下水および日射、湿気の影響を防ぐとともに、断熱対策、虫侵入防止対策に留意した計画とします。また、変温恒温環境に段階的に搬入できる諸室配置、動線計画とします。

(エ)室内環境

二重壁構造、展示室毎に管理できる省エネ・節電要請に配慮した温熱制御を行います。また、内装材、棚素材から文化財に有害なガスの放散が極力少ない等、所蔵作品の保護・保存に留意します。

(オ)電気・照明設備

紫外線カットの照明設備や灯具の落下防止等、所蔵作品の保存に留意した設備とします。

(3)体験工房

体験工房については以下の想定とします。

【開催規模】 1講座最大 20 席程度

【設備】 換気システム／作業机／椅子(20 人分)／作品棚／受講生用荷物置き場／資料置き場等

ガラス制作機器類／陶芸制作機器類／その他美術制作活動に必要な機器類

※設備については、プログラムに併せて設計時に検討します。作品保護の観点から火気発生の危険性のない設備を基本とし、下水処理や室内の空気環境にも注意します。

(4)アートライブラリー

開架式、一部閉架式とし、閲覧室、書庫を設けます。学芸員の調査、研究にも活用するため、作業スペースの確保や管理動線との関係に配慮した構成とします。規模については、20,000 冊の蔵書を基準として、今後の増冊を見込んだ広さを確保します。

貴重書はデジタルデータ(PDF 形式)による閲覧とします。また、入口付近にロッカーを設ける等の防犯対策を行います。

コピーサービス等の必要機能を導入します。

(5)エントランスホール・カフェ・ショップ

芹ヶ谷公園の緑豊かな環境と一体化した文化芸術の豊かな時間を来館者に提供する機能として、エントランスホールを整備するとともに、カフェ・ショップを検討します。工芸美術愛好家層だけでなく、幅広い市民の利用を促進します。エントランスホールは展示演出空間としても活用できる多目的な情報発信空間とします。

4 諸室機能と面積

国際工芸美術館に必要なとされる諸室の規模および要求事項を整理します。

公開・非公開	エリア名	室名	要求事項	規模	備考		
公開	展示エリア	コレクションギャラリー(ガラス)	<ul style="list-style-type: none"> ● ガラス、陶磁器の所蔵作品展示室とします。 ● 作品の特性を加味し、天井高を抑えた空間とします。(天井高 3500 mm程度) 	約 500 m ²			
		コレクションギャラリー(陶磁器)	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示ケースは地震対策に配慮したセミエアタイト型とします。 				
		特別展示室1	<ul style="list-style-type: none"> ● 借用作品による特別展や他機関との共催による特別展(巡回展)等にも対応可能とします。 ● 様々な形の展示物や展示スタイルに対応できるような空間とします。(天井高 4000 mm程度) 				
		特別展示室2	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示ケースは地震対策に配慮したエアタイト型とします。 				
		フレキシブルスペース	<ul style="list-style-type: none"> ● コレクション展示、特別展示、様々な用途に活用します。 ● 多用途に対応可能とするため、コレクションギャラリー、特別展示室よりも天井の高い大空間とします。 ● 展示ケースは全て可動式で、地震対策に配慮したエアタイト型とします。 ● 生活の中で工芸品が使用されていた様子を再現し展示するための和空間を設けます。 		和空間 4.5 畳程度含む		
	交流エリア	エントランスホール (受付/ショップ/カフェ/ロッカー)	<ul style="list-style-type: none"> ①ホール全体 ● 施設の顔となるオープン空間とします。 ● 市民、市内外の団体、大学等による活動の交流や情報交換等に対応可能なロビー空間とします。 ● 展示やガイダンス、観光情報発信等の機能をもたせません。 ● ショップとカフェを複合的に取り込みます。 ● ロッカー40 個分程度を設置します。 ②ショップ・カフェ ● 持ち込み可能スペース、セルフサービス形式も検討します。 ● 作家物のカップの使用や販売、展示や体験と関連させたカフェスペース等、オリジナルの形態を検討します。 ● 周囲の眺望を楽しめる配置を検討します。 	約 350 m ²			
			授乳室・キッズスペース		<ul style="list-style-type: none"> ● 授乳室を設置します。 ● 未就学児のためのスペースを設置します。 ● 託児サービスの実施については人員を含めて検討します。 		
			トイレ		<ul style="list-style-type: none"> ● 多目的トイレ(オストメイト・車いす対応)を含みます。 		
		学習	工房兼学習室兼ボランティアルーム		<ul style="list-style-type: none"> ● 入門者から中級者を対象とした陶磁器とガラスの制作の体験工房とします。 ● 作業スペース、必要機材、給湯設備を設けます。 ● 作業スペースはボランティア作業スペースとしても活用します。 	約 230 m ²	
			倉庫		<ul style="list-style-type: none"> ● 工房用の倉庫とします。 		

公開・非公開	エリア名	室名	要求事項	規模	備考
公開	交流エリア	学習	ボランティア控室・講師控室・給湯	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営および教育普及に協力していただくボランティアスタッフルームとします。 給湯設備を設けます。 	
			アートライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> アートライブラリーは e-book、ガラスや陶磁器を中心とした開架書庫とします。 司書やボランティア等人的サービスによる情報のレファレンスサービスを行います。 	
非公開		閉架書庫	<ul style="list-style-type: none"> 専門書は閉架書庫とします。 現状蔵書約 20,000 冊(貴重書は e-book)、今後 40,000~50,000 冊程度の収蔵が見込まれます。 閉架書庫内に学芸員の調査、作業スペースを設けます。 	学芸作業可とする	
		会議室	<ul style="list-style-type: none"> 職員用や来館者用レクチャールームとして使用します。 会議規模に応じて部屋を分割使用できるしきみを持たせます。 		
非公開	調査研究運営エリア	調査研究運営	事務・学芸執務室	<ul style="list-style-type: none"> 事務職員、学芸員の執務スペースとして机、イス、事務機器等を配置します。 	現状学芸員 4 名 事務員 2 名 嘱託 1 名
			学芸員研究室	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員の調査・研究活動、活動に付随する情報収集、発信のためのスペースとします。 	
			学芸員作業室	<ul style="list-style-type: none"> 資料の整理、制作等、展示関連の作業室とします。 	
		職員休憩室・臨時職員休憩室・更衣室	<ul style="list-style-type: none"> 職員、臨時職員の休憩室、更衣室とします。 救護室を兼ねた和室空間を設置します。 	約 200 m ² 和室(救護室兼)含む 現状臨時職員 3 名程度	
		館長室兼応接室	<ul style="list-style-type: none"> 館長執務スペース、応接室として活用します。 	現状 1 名(非常勤)	
		物品庫	<ul style="list-style-type: none"> 販売物の在庫保管、広報ツール等の保管庫とします。 		
		給湯室・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ用とします。 		
	その他	警備員室	<ul style="list-style-type: none"> 警備スタッフ 	約 300 m ²	現状 4 名、うち 2 名常駐
		設備・清掃員控室	<ul style="list-style-type: none"> 管理系スタッフ 		現状 4 名

公開・非公開	エリア名	室名	要求事項	規模	備考	
		給湯室・トイレ	警備、管理管理系スタッフ用とします。		床面積の10%相当	
		空調・機械室				
非公開	収集保存エリア	作品・資料	前室、検品、写場	<ul style="list-style-type: none"> ● 収蔵庫に搬入する前の資料検品、温湿度調整室として利用します。 ● 資料の撮影が可能な写場機能をもたせます。 	約1200㎡	
			収蔵庫1(ガラス・金属)	<ul style="list-style-type: none"> ● ガラス作品、金属作品を保管するための収蔵庫とします。 ● 湿度 45% 		
			収蔵庫2(陶磁器・その他)	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器作品等を保管するための収蔵庫とします。 ● 湿度 50～65% 		
			収蔵庫3(借用品等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 借用資料保管に対応する特別収蔵庫とします。 ● 湿度 45～65%(借用品の素材に合わせた湿度とします) 		
			トラックヤード	<ul style="list-style-type: none"> ● 搬入用トラック(4tを基準)の収容可能なスペースを確保します。 ● 外気の流入、換気に留意します。 		
			荷捌き場・荷解場	<ul style="list-style-type: none"> ● トラックヤード～荷入～エレベーター(資料運搬用の大型)～収蔵庫動線に配慮します。 ● 文化庁指針に基づいた空調・電気(照明)・消火設備を設置します。 ● 資料燻蒸はテントを使用して行います。 		
			展示用品倉庫・展示ケース置場	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示替え時に什器や展示備品を保管するバックヤードとします。 ● 展示室との動線に配慮します。 		
その他	その他	廊下等		約220㎡	床面積の5%相当	
		外構清掃用具置場・倉庫・廃棄物一次保管庫				
合計				約3000㎡		

5 空間活用・演出

空間の様々な活用・演出により、作品の美を引き立たせ、工芸美術の美しさをより実感できるようにします。気軽に入りやすい美術館とすることで、工芸美術に触れる機会のなかった人に対しても接する機会を提供し、より多くの人に魅力を伝えます。

(1) 内部空間の演出

工芸美術の魅力を体感できる内部空間を演出します。

(ア) 芹ヶ谷公園の美しい緑の活用

建築デザインの一部として周囲の自然を取り込み融和することにより、建物内部から、芹ヶ谷公園の四季折々の美しい自然を楽しむことができるような空間を演出します。

(イ) 非日常性の演出

街中の喧騒や日々の慌しさを忘れ、ゆっくりと美術品を鑑賞していただくために、美術館に至るアプローチも含め館内のデザイン等を工夫し、作品に対峙するまでにスムーズに気持ちが切り替わるような演出を行います。

(ウ) 館内全体を楽しむことができる空間の演出

展示室の外でも作品が鑑賞できるスポットや、館外の景色を観ることができるスポットを設置する等により、館内全体を楽しむことができるような演出を行います。

(エ) 作品を引き立たせる照明演出の工夫

作品の魅力を堪能していただくために、作品の質感を正確に伝え、本来の色彩を忠実に再現し、形の美しさを引き立たせるような照明を導入します。また、作品の様々な表情を楽しんでいただくために、時には展示ケース全体を明るめにしてニュートラルに、時にはスポット照明でドラマティックになど、様々な演出を行います。

(オ) 作品に近い距離で向き合える展示の検討

じっくりと作品と対峙する時間を楽しんでいただくために、無反射ガラスを使用しガラス越しであることを感じさせない工夫を行います。また無理のない姿勢で鑑賞できる高さのケースを導入し、ケースの一部については360度すべての方向から作品を鑑賞できるようにします。



公園の自然が建物内から楽しめる空間



エントランスや廊下なども含め、館内全体を楽しむことのできる工夫



効果的な照明演出に加えて
近い距離で作品に向き合える展示

(2) 開かれた美術館の演出

気軽に入れる美術館を実現します。

(ア)内と外をつなぐ空間演出

入ってみたいくなるように、外から館内の様子がよく見えるような開放的なエントランスを設けます。また、館外からのアプローチを工夫して、内と外との連続性を感じさせる演出をします。

(イ)交流する空間の設定

工芸美術になじみのない人の関心も引くように、人が集まれるようなスペースを美術館に接して設けます。

(ウ)くつろぐ空間の設定

天井高などを工夫しくつろげる空間演出を工夫します。また、効果的にイスを配置するなどして、作品鑑賞前後や合間にゆったりとくつろげるスペースを設けます。

(エ)気軽に入りやすいショップやカフェを計画

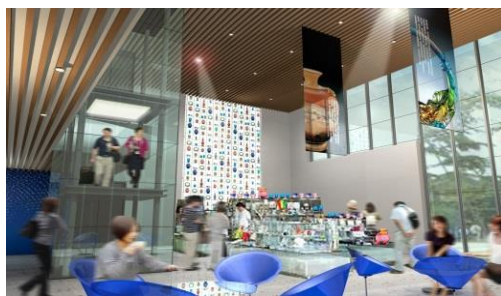
外からも様子が伺え気軽に入れるようなショップやカフェの設置を検討します。作家もの手ごろな器などを扱い、ショップだけでも訪れたいくなるようにします。展示室に立ち寄りなくても、ショップ等の設備を利用できる動線の工夫もあわせて行います。



館内の様子が外から垣間見え、
多くの人が交流する連続性のある空間



開放感のある、カフェやテラス



開かれた空間で、気軽に訪れ、
くつろぐことのできるエントランスやショップ

6 建築意匠の考え方

町田市の「美術ゾーン」拠点施設として、隣接する国際版画美術館と効果的な連携を保ち、芹ヶ谷公園内の環境や地形と調和した意匠計画を行います。また、町田市の地域景観の資産となる施設を目指します。

この考え方を前提に、設計者の選定を行います。

(1) 建築意匠に求められる要素

(ア)町田市「美術ゾーン」拠点施設としての品格と個性

美術館としての機能性と芸術性を併せ持つ品格のある建物とします。国際版画美術館や周囲の自然との間に相乗効果を持たせた個性的で新しい価値を創造します。

(イ)芹ヶ谷公園内施設としての自然との調和

緑豊かな谷の地形を活かしながら、四季折々の緑豊かな表情を持った建築とします。

(ウ)町田市の新しい景観資産となりうる地域性

芹ヶ谷公園、国際版画美術館、国際工芸美術館が一体となって、ここにしかない印象的な建築体験を提供し、地域景観の資産として町田市に新たな魅力を提供します。

(2) 町田市の公共施設として配慮すべき事項

町田市公共事業景観形成指針より、以下の項目に配慮するものとします。

A:配置

- 道路や隣接敷地と隣接しすぎず、ゆとりある空間
- イベントや災害時利用のためのオープンスペース
- 原地形を活かし、敷地改変は最小限に
- 中景に配慮

B:意匠、色彩

- 控えめな中にもアクセントを施し、地域のシンボル、景観上の資産になるように
- 周囲の街並み、自然景観になじむ

C:素材

- 耐久性、耐光性に優れ、時間の経過とともに味わいが増すよう配慮
- 長大な壁面は凹凸素材や視覚効果で陰影を出す等、単調にならないよう配慮
- 付近の建築物との調和

D:外構、緑化

- 周辺の自然環境になじませる
- 1年を通じて変化を楽しめる景観
- 夜間景観に配慮

「町田市公共事業景観形成指針」より抜粋